

全国生涯学習ネットワークフォーラム2011(平成23年11月5日(土)、6日(日)) 資料1-2

「学びを力とする3.11以降の地域づくり、社会づくり」をテーマに、被災地を始め様々な分野や地域の人々の参加を得て、震災の経験から見てきた成果や課題を踏まえ、生涯学習を通じた新しい地域づくり・社会づくりについて研究協議を行い、「新しい公共」による社会づくりの推進や関係者間のネットワークの充実を図る。



全体会



雄勝復興輪太鼓の演奏
(石巻市立雄勝中学校)
被災地の復興を願い、タイ太鼓による「伊達の黒船太鼓」を披露

オープニングセッション

学びを生かした地域づくり・社会づくりについて、5つの分科会の課題・方向性等を提起



第3分科会

〔希望の高齢社会 - 新たな可能性への挑戦 - 〕

高齢者を地域における社会的役割を認識し「社会参画」や「自立」を通じて地域を支える担い手として捉え直し、高齢者の社会参加の促進を図る上で、果たすべき生涯学習の役割等について研究協議



基調講演「超高齢社会の現状と課題」 (北海道大学 宮本教授)

教育と社会保障の相互連携により、高齢者の社会参加と雇用を支えることが必要

事例発表・ポスターセッション

生涯学習を通じた高齢者が生きやすいまちづくりの取組など、16の事例をもとに参加者と意見交換



第1分科会

〔学びの場を核にした地域の絆づくり〕

行政、学校、社会教育施設、NPO、地域の人達が、被災地の復旧・復興等の中で育まれた人と人とのつながりの重要性を再認識するとともに、全国的課題である地域の絆やコミュニティの再生の在り方について研究協議



子ども熟議

子どもたちがつむぎ合う、これからの「絆」をテーマに岩手県、宮城県と東京の小中学生が、3.11を経て「絆」について熟議とネットによる意見交換



ナイトセッション

「福島からの発信、そして対話」
最大2,500人の避難所運営に携わった社会教育専事と福島県在住の詩人が見たふるさと福島の姿と想い。「どんなことがあっても故郷を捨てない。福島で生きる。」



シンポジウム「これからの地域の絆づくりに向けて今、私たちに求められること」

「学び」と「絆づくり」をキーワードに、震災後に見えてきた課題や今後の方向性と新たなネットワークづくりについて協議

第4分科会

〔ICTを活用した安全・安心な学校の創造〕

文部科学省が取りまとめた「教育の情報化ビジョン」の趣旨を踏まえ、災害時におけるICTの活用方策やこれからの教育におけるICTの果たす役割と展望について、全国の行政や学校、企業等関係者が研究協議し、ICTを活用した21世紀にふさわしい学びと安全安心な学校の創造を目指す。



講演(信州大学 東原教授)
「教育の情報化ビジョン」実現のための課題と今後の展望について講演



模擬授業

タブレットPC、電子黒板、デジタル教科書等を用いた新しい授業を参加者が体験

第2分科会

〔これから求められる防災教育への取組〕

東日本大震災や阪神・淡路、中越の被災地を始め、各地で防災や防災教育に取り組む様々な関係者が集まり、地域ぐるみの防災教育について研究協議



基調講演 (群馬大学 片田教授)

「釜石の奇跡」の立役者。避難三原則「想定にとられない、最善を尽くす、率先避難者になる」



事例発表・ポスターセッション (釜石市教育委員会等)

生きる力より生き抜く力を身に付ける防災教育の取組(釜石市教委)など、29の事例をもとに参加者間の情報交換とネットワークづくり



熟議(ワークショップ)

これからの防災教育のあり方について15班に分かれ熟議。地域ぐるみでの取組、継続と継承、防災リーダーの育成などの必要性について報告

第5分科会

〔震災ボランティアと若者たち～その学びと支援を考える～〕

震災ボランティアとして現地で活動している若者やその支援者である行政・NPO及びこれから参加を希望する学生等を対象に、活動を通じた若者の成長や学びと今後の可能性について研究協議するとともに、時代を担う若者等のネットワークづくりを推進



現地報告(学生団体福島大学災害ボランティアセンター等)
全国の様々な団体と連携したボランティア活動(福島大学)の報告など



震災ボランティアネットワークセッション(大船渡市立第一中学校「希望新聞」等)
学校や学生団体、NPO法人など18団体がブースを出展し、活動を紹介。参加者間のネットワークづくり



熟議(ワークショップ)

若者の震災ボランティアの経験と学びや関係機関・団体の支援方策、今後のボランティア活動の在り方と支援について熟議